

◎「史跡池辺寺跡」の整備工事が完成します!



お寺の基壇跡



基壇の石組み階段



基壇の調査



火葬墓の調査



◎西環状道路建設地の発掘調査が終わりました

昨年は「地下式坑」が見つかって注目された「西環状道路」の遺跡発掘調査ですが、今年の中世のものと思われる基壇の追加調査を行いました。基壇とは、建物の土台のことです。基壇には石組みの階段が備えられており、その階段の両側には石列がありました。この基壇の上にはお寺やお堂が建っていたと考えられます。

また、火葬墓も見つかりました。これは火葬した骨を入れた骨壺ですが、池辺寺の亡くなったお坊さんを葬ったものでしょうか。

平成24年度から3カ年に渡って行ってきた熊本市役所の西環状道路の発掘調査ですが、27年3月に終了しました。馬場上・来迎院地区には、中世以降の池辺寺に関連した小規模なお寺やお堂がいくつもあったことが分かってきました。今回の基壇や火葬墓も、そのような寺院に関係したものでしょう。



百塚地区の調査時の写真



「史跡池辺寺跡」の完成予想図



復元中の塔

百塚地区の史跡池辺寺跡では平成24年度から保存と整備のための工事を行ってきましたが、それがいよいよ完成する予定です。

池辺寺は味生池に棲む悪龍を鎮めるために建てられたと伝えられています。百塚地区はその池辺寺の初期の頃の中心地で、9世紀初めのもので、本堂の西側には整然と100基並んだ石塔が、東側には花岡山を挟んで、平安時代の肥後国の中心である二本木一帯や阿蘇方面が展望できます。

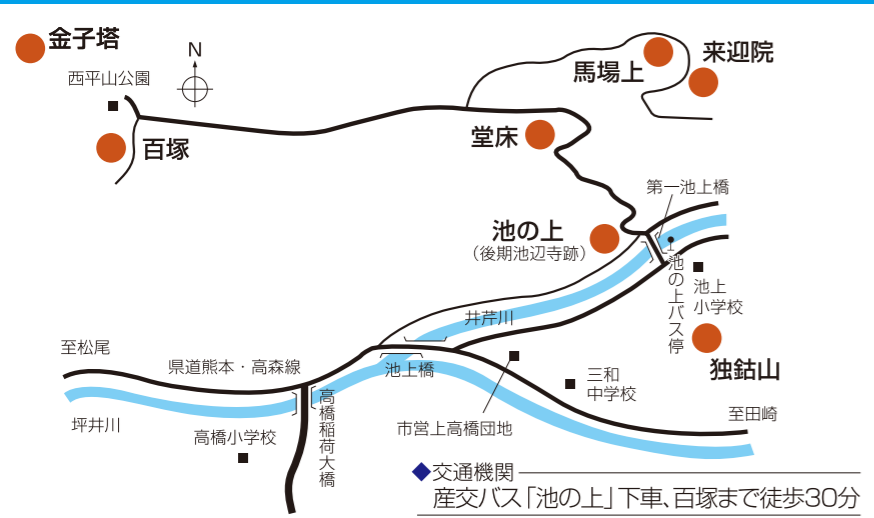
整備工事は遺跡が見つかった状態を再現し、発見時の迫力や感動が伝わるようにしています。また同時に、百塚地区から約500m離れた山中にある金子塔という石碑についても保存のための工事が完成します。平成28年4月から自由に見学できるようになりますので、皆さんぜひ現地で古代の息吹に触れてみて下さい。



金子塔VI区の発掘調査

◎発掘調査の成果

昨年から引き続いて、金子塔から100m強離れた斜面で見つかった大きな石積みの調査を行っています。石積みは複数あり、その中の1基は幅が約2.4m、長さが15.6m程と推定される大規模なものです。百塚と同じ古代のものと思われるが、どうしてこのような山の中にわざわざ石組みの施設を造ったのでしょうか。現在調査継続中です。



お問い合わせ
熊本市役所文化振興課 埋蔵文化財調査室
 電話 096-328-2740
 メール maizoubunkazai@city.kumamoto.lg.jp

◎平成27年の活動成果

○展示

金峰山少年自然の家にて池辺寺跡出土土器・瓦を展示中
 熊本市埋蔵文化財資料室にて土器・瓦・石製品などを展示中

○講演など

池上校区公民館歴史講演会「史跡とまちづくり」(1月21日)
 池辺寺観音祭講話「独鈷山と妙観山」(9月10日)

○見学会・ウォーキング

池上小学校5学年見学会(1月13日)
 池上校区ウォーキング(3月22日)
 東北大学日本史研究会見学会(10月21日)
 川尻小学校5学年見学会(12月10日)

○地域行事

池上小学校「味生祭」(2月8日)

○学校授業

池上小学校6学年「遺跡体験授業」(6月5日)



池上小学校の遺跡体験授業



川尻小学校の遺跡見学会

熊本市立池上小学校3年生児童(平成27年度)の作品です。「味生池と龍」伝説を描いています。



◎出土品の紹介⑥ 硯

百塚があった平安時代は、文字の読み書きができるのが役人や僧侶といった一部の人々だけでした。池辺寺からは墨で文字が書かれた土器や今回紹介する硯が見つかっており、そのような文字を使える知識人がいたことをうかがわせます。写真の硯は、日常に使っていた椀の蓋などを硯として利用したものです。



百塚地区から見つかった硯

◎宝物の紹介⑥

不動明王像…市指定文化財

右手に剣、左手に縄、背中に火炎を背負って怒りの表情を浮かべているのは不動明王です。いかにも恐ろしい姿ですが、悪を撃退し、私たちの迷いを断ち切って救ってくれる頼れる仏様です。池辺寺縁起絵巻には、仙海和尚が不動明王の力によって龍の心を清めたという10世紀頃の伝説が描かれていますが、現在池辺寺に伝わるのは15世紀以降の像のようです。



不動明王像(池辺寺跡財宝管理委員会所蔵)



池辺寺縁起絵巻の一場面(池辺寺跡財宝管理委員会所蔵)